

クドバス手法を活用した教育研修

川 上 友 美*・石 井 英 子*

Training and Development That Uses Culliculum Development Based on Ability
Structure (CUDBAS) Technique

Tomomi KAWAKAMI and Hideko ISHII

要 旨

電子カルテ導入に関して指導者の具体的な目標設定や客観視が困難であり、電子化に伴う改革の推進者と看護管理者を兼ね備えた指導者像が不安定であった。CUDBAS 手法を活用して指導者の具体的な目標設定や客観視を明確にすることができるようになると考え、電子カルテ実践能力指標の開発を試みることを目的とした。

認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程に参加した84名を対象にして、グループに分け CUDBAS のリスト図作成を行った。各グループで作成した CUDBAS のリスト図から、類似性を抽出し一つの CUDBAS のリスト図を作成した。

CUDBAS 手法を活用した結果、電子カルテ実践能力指標に示したような実践能力・教育能力・評価能力が必要であることがわかった。

キーワード：クドバス 研修 看護管理者 電子カルテ

I. はじめに

平成13年に厚生労働省が策定した「保健医療分野の情報化にむけてのグランドデザイン」の中では、1. 患者の選択の尊重と情報提供、2. 質の高い効率的な医療提供体制、3. 国民の安心のための基盤づくりの3つを柱とする「医療の将来像」が挙げられている。電子カルテは便利な道具ではなく、減る業務もあれば増える業務もあり、全体として質の向上を図るものであるといわれ、電子カルテの導入に関して「何の能力を」「どれだけ」「いつまでに」「どのようにして」向上させるかという、指導者の具体的な目標設定や客観視が困難であった。また、電子化に伴う改革の推進者と看護管理者を兼ね備えた指導者像

* 看護学部 看護学科

が不安定であった。

森は「Curriculum Development Method Based on Ability Structure = CUDBAS（以下、CUDBAS とする）」の特徴を 6 点挙げている。①早くできる、②手続きがシンプルで簡単である、③小集団により意思決定、④第一人者であれば説得力がある、⑤記録が残る、⑥応用範囲が広い¹⁾、である。電子カルテの導入に視点をおいた教育研修において、CUDBAS を活用し職業能力に必要な「広がり」と「深まり」がまとめられ、指導者の具体的な目標設定や客観視を明確にすることができるようになると考え、電子カルテ実践能力指標の開発を試みることにした。

II. 用語の定義

CUDBAS で考えている「職業能力」とは、その職業の遂行に必要な能力群をいう。職業能力には「広がり」と「深まり」がある。「広がり」とは分野を指している。どれだけの分野に広がっているかが表される。「深まり」とは水準を表している。つまり、どの分野にどれだけの水準を持っているかになる²⁾。

III. 研究方法

1) 対象者

認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程に参加した 84 名である。

2) 調査方法

14 グループ（6 名×14 グループ）に分ける。一人 6 枚（1 項目 2 枚）のカードを配布する。1 件 1 カードに書き出し、カードを仕事の単位でまとめていく。重要度の順序で並べ直し、カードごとの水準を書き入れリスト図の作成をする。

3) 調査内容

電子カルテを導入して、「あなたができていること、できること」、「どんなことをしなければならぬか」、「そのためにはどうしたらよいか」の 3 項目である。

4) 分析方法

分析は統計ソフト PASW Statistics 17.oj.for.windows を用いた記述統計を行った。各グループで作成した CUDBAS のリスト図から、類似性を抽出し一つの CUDBAS のリスト図を作成した。リスト図の作成にあたっては、研究者間で検討を重ねて行った。

5) 倫理的配慮

対象者に研究目的及び方法、研究への参加は自由意志であり、不参加に不利益がないこと、プライバシーの保護、データは研究以外に用いないことを口頭で説明し了承を得た。

IV. 結 果

1. 対象の属性

対象者は 84 名、職種は師長 49 名、主任 34 名、スタッフ 1 名、性別は男性 6 名、女性 78 名であった（表 1）。

表1 性別と職位 (n=84)

性別\職位	師長 n=49 (%)	主任 n=34 (%)	スタッフ n=1 (%)
男性	5 (6.0)	0 (0)	1 (1.2)
女性	44 (52.4)	34 (40.5)	0 (0)

2. 電子カルテ実践能力指標

有効能力カード枚数は、電子カルテを導入して、「あなたができていること、できること」143枚、「どんなことをしなければならないか」107枚、「そのためにはどうしたらよいか」129枚であった。すべてのレベルにおいて実践能力のカード枚数が多く、中でも看護展開が多く見られた（表2）。類似性を抽出し一つの CUDBAS のリスト図を作成した（表3）。

表2 電子カルテ実践能力指標のカード枚数

	レベル I (n=143)	レベル II (n=129)	レベル III (n=107)
実践能力			
看護展開	43	56	57
リーダーシップ	42	17	19
セキュリティ	11	7	19
ハード	7	12	0
教育能力	34	30	10
評価能力	6	7	2

V. 考 察

1. 職業能力の広がり

実践能力、教育能力、評価能力の3つが主軸となることがわかった。特に、実践能力の中で看護展開のカード枚数が多く、電子カルテ実践能力とはいえ診療の補助や診療上の世話という看護師の役割を重要視していることが見られた。柏木は、「電子カルテによってチーム医療が促進できるが、これは看護師の役割がこれまで以上に増えることでもある。患者に最も接しているのは看護職であり、最も多くの情報を持っているといっても過言ではない。チーム医療では、この情報を他職種と共有する必要がある、それを“みんなのカルテ”を使って伝えなければならない」³⁾と述べている。電子カルテとは、共有できるすなわち“みんなのカルテ”であり、チーム医療では、職業能力が求められるものであり看護展開の中に示されていることと同様であると考えた。

2. 職業能力の深まり

研修の時間内に水準を検討できないグループも見られたため、研究者間で検討した結果、現在できていることとして「あなたができていること、できること」のカードをレベル I、今後に向け現在や労していることとして「そのためにはどうしたらよいか」のカー

表3 電子カルテ実践能力指標

到達レベル	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ
定義	電子カルテを使用できる	電子カルテを利用し、役割モデルが果たせる	総合的な判断のもとに電子カルテを活用できる
項目\達成目標	推奨点や変更点が判断できる	影響と効果がわかり、分析ができる	必要なものを識別でき、管理能力を発揮することができる
実施能力 (看護展開)	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル作成ができる ・見直しができる ・サマリー作成や記録ができる ・情報収集ができる ・評価ができる ・情報活用ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のものを見直し、必要に応じた業務改善やマニュアル作成ができる ・情報機関を活用して連携システム作りへの関与ができる ・情報整理ができる ・目的を明らかにしたうえで情報収集ができる ・アセスメント能力の向上により記録充実となるように指導ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を身につけ、操作を覚え、使いこなすことができる ・情報管理ができる ・簡潔明瞭なシステム作りができる ・適宜、正確でわかりやすい記録ができる ・質の維持のための訪問記録の見直しや確認ができる ・共有した情報活用ができる ・的確なアセスメント・ケアの継続ができる
実施能力 (リーダーシップ)	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで行動することができる ・連携をとるための話し合いができる ・業務調整ができる ・メール確認などの情報確認ができる ・コーディネーター的役割ができる ・退院調整ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要時、情報確認・把握ができ、連携や調整がスムーズにできる ・適宜、コミュニケーションをとり話し合いができる ・情報管理を含めた倫理委員会などの立ち上げができる ・クレーム処理や対応策への取り組みができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な情報伝達や提供ができる ・速やかな、連携や調整ができる ・不具合を改善するための働きかけができる
実施能力 (セキュリティ)	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護・セキュリティへの対応ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティの整備・管理ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護・セキュリティへの予防策と倫理に留意した取扱ができる ・規定の遵守ができる
実施能力 (ハード)	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンの機能充実に向けた取り組みができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なパソコンの機能充実と活用にむけた働きかけができる 	
教育能力	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会を開催することができる ・集団・個別指導ができる ・自己学習ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、勉強会を開催することができる ・必要時、集団・個別指導ができる ・自己研鑽ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報に対する意識向上指導ができる ・集団に応じた勉強会を開催することができる
評価能力	<ul style="list-style-type: none"> ・監査ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、監査ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な監査ができる

ドをレベルⅡ、今後やらなければいけないこととして「どんなことをしなければならないか」のカードをレベルⅢとした。CUDBAS を活用する場合には、少なくとも共通した認知領域に属する仕事や能力について、重要度というよりは主として「取り組み易さの順序」といったゆるやかな視点で配列する工夫がとられても良いことになっている⁴⁾。電子カルテ実践能力指標の水準は、取り組みやすさに重点を置き設定することが可能である。したがって、今後、施設内研修においても CUDBAS 導入を推奨することも大切である。

3. 電子カルテ実践能力指標

現在、国内では看護情報の専門化が極端に不足しており、電子化に伴う改革の推進者としての役割は、すべて看護管理者が負わされている⁵⁾。対象者は認定看護管理者の教育課程に参加しており、電子カルテの実践能力指標とは看護管理者の指標とも考えることができる。電子化に伴う改革の推進者としての役割は、次のようなことが考えられた。看護展開（実践能力）ができるだけではなく、リーダーシップ（実践能力）のように自ら進んで行動して、円滑な情報伝達や提供などの複雑な問題を分析するための積極的な関与をすること。そして、セキュリティ（実践能力）やハード（実践能力）と教育能力や評価能力などの情報を識別し、勉強会を開催すること。更に、円滑な監査などができるサポート体制の確立を整えることである。よって、看護管理者には電子カルテ実践能力の分野でも期待され、実施能力・教育能力・評価能力が必要である。

VI. ま と め

CUDBAS 手法を活用した結果、看護管理者は電子化に伴う改革の推進者として、具体的な目標設定や客観視を明確にすることが大切であり、電子カルテ実践能力指標に示したような実践能力・教育能力・評価能力が必要であることがわかった。

引用文献

- 1) 森和夫：人材育成の「見える化」上巻—企画・運営編—, JIPM ソリューション, 104-105, 2008.
- 2) 森和夫：人材育成の「見える化」上巻—企画・運営編—, JIPM ソリューション, 106-107, 2008.
- 3) 柏木公一：電子カルテ導入の意義, 看護, 60(10), 40-43, 2008.
- 4) 伊藤正春／監修：指導医と研修医で構築する 新しいカリキュラム開発, 篠原出版新社, 71-73, 2009.
- 5) 山内一史：電子カルテ時代に求められる看護職の役割, 看護, 56(14), 69-74, 2004.